## 説教ワンポイント

### しかし、勇気を出しなさい

ヨハネ一六・二九～三三

「勇気を出しなさい」。聖書の中で伝統ある言葉です。旧約聖書・出エジプトの時代、荒れ野を四〇年さまよった後、はるかカナンを仰ぎ見ながらも自らの役割を終えねばならなかったモーセがイスラエルの民に向かって言います。

「強く、また雄々しくあれ」（申命記三一・六）（以前の口語訳は「あなたがたは強く、かつ勇ましく…」。）モーセは自らの後継者ヨシュアに対しても同じ言葉で励まします。次いでヨシュアが民を率い、さあ、いよいよ約束の地カナンに進み行こうとする時、今度は神自らがヨシュアに命じます。「強く、雄々しくあれ」（ヨシュア記一・六）

勇気をもち、強くいられたらどんなにいいでしょう。でも実際は、何度も失敗を繰り返し、自分の弱さを知り、大きな現実にうちのめされ、なかなか「勇気」をもてないでいる私たち。そんな私たちになおイエスは「勇気をもて」と？やせがまんやカラ元気の「勇気」なら何の意味もありません。

イエスはそんな「勇気」を求めているのではありません。むしろ私たちの弱さをよく知っている。だから、「しかし」というのです。とても勇気をもてない現実がある。「しかし」、それを覆す事実が起きた、と。その事実とは？

イエスが共にいてくださる、という事実。私たちの弱さを自らのこととして十字架にいたるまで担った方がおられる。その事実が私たちをもう一度立ち上がらせる。本当の強さとは、私は一人ではない、と言える強さのことです。

（二〇一六年五月一日礼拝より、津田記す）